

2008 年度事業報告書目次

2008 年度財団法人東洋文庫事業報告書

I. 調査研究

- A. 超域アジア研究
- B. アジア諸地域研究
 - 1. 東アジア研究部門
 - 2. 内陸アジア研究部門
 - 3. インド・東南アジア研究部門
 - 4. 西アジア研究部門
- C. 資料研究
- D. 各種研究会・講演会開催

II. 資料収集・整理

- A. 資料購入
- B. 資料交換
- C. 図書・資料データ入力数
- D. 資料保存整理

III. 研究資料出版

- A. 定期出版物刊行
- B. 論叢等出版

IV. 普及活動

- A. 研究情報普及
- B. データベース公開

V. 学術情報提供

- A. 図書・資料の閲覧(協力)サービス
- B. 研究資料複写サービス
- C. 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス
- D. 広報普及
- E. 研究者の交流および便宜供与のサービス

VI. 地域研究プログラム

- A. イスラーム地域研究資料室
- B. 現代中国研究資料室

VII. 受託研究

2008 年度財団法人東洋文庫特別事業報告書

I. 調査研究

A. 超域アジア研究

1. 超域アジア研究部門

(1) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究」

本プロジェクトでは、20世紀後半において激変を経験し、東アジアから世界にまで政治・経済的な影響力をもちつつある現在中国の全容を、歴史・文化の要因を含めて総合的に分析する研究体制(政治と外交、経済、国際関係・文化の各グループ)を構築した。このための基礎資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点にしつつ、学際的研究・公開利用の観点から拡充と再編をはかる。

[研究実施概要]

- a) [政治グループ] 現代中国におけるすさまじい社会変容がもたらす政治変動を、最近ようやく急増してきた資料と多様化してきた言論を分析道具にして明らかにするため、2ヶ月に1回程度の研究会方式で研究活動を継続した。
- b) [経済グループ] 前年度までの実績に基づき、メンバー全員参加による論文集『歴史的視野から見た現代中国経済』を出版するため、執筆作業を進めた。また、南京農大における、ロッシング・バック農業調査原資料の収集作業を完了し、資料を内部利用するためのデータベース構築について検討した。
- c) [国際関係・文化グループ] これまでの研究成果を、東洋文庫論叢『日中戦争期における社会・文化変容』として刊行したのを受け、第2期に向けて、全体の研究テーマを「戦後中国の社会・文化変容と国際関係」とし、2ヶ月に1回程度の研究会を開催した。研究会は公開とし、若手研究者の優れた研究成果について有意義な報告を得た。

(2) 現代イスラーム研究班

「現代イスラームの超域的研究－議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究－」

本プロジェクトでは、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書(アラビア語、ペルシア語、トルコ語)を分析し、それぞれの地域(国家)に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討することを通じて、中東・イスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を総合的に考察する。

[研究実施概要]

「現代イスラーム研究班」では、2005,2006年度に刊行した成果(*Agenda Index of the Minutes of the Iranian National Assembly, A Guide to Egyptian Parliamentary Records*, 『トルコにおける議会制の展開－オスマン帝国からトルコ共和国へー』)にもとづいて各国議会資料の分析をさらに進めた。また、3グループ合同の英文論文集 *Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World* (Toyo Bunko Research Library [以下 TBRL] No.11)を刊行した。

B. アジア諸地域研究

現代アジアの複合的かつ動態的な発展を理解する上で、各民族が有する個性豊かな歴史と文化の基礎的研究が欠かせない。本研究は、アジアの現状に強い影響力をもっている歴史・文化の諸要素につき、基礎的かつ長期の取り組みを要する総合的な研究を実施する。

1. 東アジア研究部門

(1) 前近代中国研究班

①「中国古代地域史研究－『水経注』の分析から－」

『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注を考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析することによって、中国古代の地域社会の構造を再検討する。

[研究実施概要]

- a) 陳橋驛『水経注疏』(江蘇古籍出版社)をテキストとして、隔週の研究会において、その巻17・18・19「渭水」(甘肅省に発し、陝西省咸陽の南、西安(長安)の北を経て黄河に注ぐ)の部分を旧ソ連製('78年、1/100,000)の詳細なランドサット衛星地図および楊守敬『水経注図』と重ね合わせ、諸注および諸校訂を検討した。2008年度は特に巻15「洛水」の講読を進めた。
- b) 渭水流域の地誌的記述及び考古学的調査・発掘報告を収集し、渭水流域の歴史的な自然環境・社会的実態により具体的に迫るため、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせて検討した。2007年度に刊行した『水経注疏訳注 渭水上』に続き『水経注』巻19訳注(下巻)の出版準備のため、12月に研究会を開催し、編集方針を検討した。
- c) 台湾中央研究院所蔵の陳橋驛『水経注疏』稿本および、購入当時の傅斯年による分析書類を確認するため、多田狷介、池田雄一(以上、研究員)、高田ひさ子、山元貴尚(以上、研究協力者)の4名が調査を行った。

②「宋代社会経済史用語解の作成」

『宋史』食貨志の諸篇の訳注および『宋会要』食貨の諸篇語彙の索引カードの成果にもとづいて、宋代社会経済史研究の推進に寄与する《用語解》を作成し、データベース化して公開する。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫既刊『宋史食貨志訳注(一)～(六)』(1960～2005年)に収まる用語の注解、および東洋文庫の《宋会要輯稿食貨篇語彙索引》事業(1964年～)で蓄積した索引カードを中心にして、宋代の経済史・社会史の研究に役立つ《用語解》を作成しデータベース化するため、入力データの統合・修正作業を進めた。
- b) 上記a)のため、前年度に引き続き、収録語彙を選定し、各語彙に付する範疇別・時期別・地域別のサブコード、解説、用例、出典の注記法について準則を共有して表記統一作業を継続した。

③「東アジア都城の考古学的調査・研究(Ⅱ)」

2002～2006年度にかけて、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行ない、その研究成果として2004年度に『東アジアの都城と渤海』(全394頁)を、2006年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊した。しかしその中心となる渤海上京龍泉府址(東京城)出土遺物の調査・研究は、予想以上に多数の遺物があったため、整理に手間取り、一部の遺物の調査・研究については、2008年度においても継続実施する。

[研究実施概要]

- a) 2007年度に引き続き、渤海・遼・金時代など、中国東北部を中心として興起した諸国の都城・城郭について、田村晃一(総括)と小嶋芳孝が現地調査を実施し、その調査データの分析を行った。

- b) 上記諸国と同時期における、同時代の中原諸国家の都城・城郭との比較研究を継続した。
- c) 飛鳥藤原宮より渤海の遺物が出土したとの情報を得、奈良文化財研究所において調査を行った。

④「前近代中国の法と社会(Ⅱ)」

宋から明清時代にかけての戸婚・田土・錢穀などに関する法を明らかにし、前近代中国の「民事的」法の特質、歴史的変遷、地域性などを分析し、前近代中国の地方と中央政府との関係を考察することを目的としている。主として宋代以来の判例、契約文書を史料とするために、併せてこれらの史料の所在を調査し、蒐集する。

[研究実施概要]

- a) 国内外の判牘文集及び条例の蒐集を継続した。
- b) 研究動向を中心とした報告書、および「民事」的法、規範、契約文書などに関する研究文献のデータをまとめ、『前近代中国の法と社会—成果と課題—』として刊行した。

(2) 近代中国研究班

「1910～30年代における日本の中国認識」

近代日本の官民様々な機関が作成した中国実態調査資料の検討を通して、日本の同時代中国認識を明らかにする研究の一環である。これまでに行った興亜院による戦時中国調査、及び第1大戦期青島守備軍による青島・山東調査などについての研究成果を踏まえ、満鉄や在中国日本商工会議所など各種機関による調査も含めて日本の華北調査の全容を明らかにする。2008年度は、重要な資料について解題付き目録を作成しつつ、成果の刊行準備を行う。

[研究実施概要]

- a) 日本軍の山東占領期に同地域で獲得した経済的基盤がその後の華北における日本の進出とどのようにつながっていったかについて研究を継続した。
- b) 6月14日、9月6日、2月14日に班員以外の研究者を交えた研究会を開催し、戦前期日本の中国認識に関し、有意義な報告を得た。
- c) 内外研究者を交えたこれまでの研究会の成果をまとめ、『戦前期華北実態調査の目録と解題』として刊行した。

(3) 東北アジア研究班

①「日本所在近世朝鮮文献資料研究」

京都大学附属図書館、天理大学附属図書館今西文庫をはじめ、日本各機関・個人が所蔵している、近世朝鮮文献記録の第二次調査を行なう。4年計画により、すでに出版した『日本所在近世朝鮮記録解題Ⅰ』の続編として、『日本所在近世朝鮮記録解題Ⅱ』の完成を期する。従来、近世朝鮮のいわゆる朝鮮本と言われる古典籍については、総合的な調査が進行し、ある程度その全貌が解明されてきた。しかし主として成冊と言われる、帳簿を中心とした、地方資料・民間資料については、全体的な調査がほとんど行なわれてこなかった。第1次調査では、すでに該地にも残存が確認されていない資料について発見し、内容分析を行なってきた。第1次調査と今回の第2次調査によって、ほぼ日本における該資料は悉皆的な調査を行なうことができる。

[研究実施概要]

5年間の研究成果をまとめ、『日本所在朝鮮近世記録解題』を刊行した。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」

近年、中国・清朝史研究の分野では、満洲語で記された文書資料の利用が不可欠なものとなっており、当研究グループは、当該方面の研究の牽引車として国内外に認知されている。現在、我々のグループは、北京の中国第一歴史檔案館（檔案とは公文書のこと）に所蔵される「内国史院檔」と、東洋文庫に所蔵される「鑲紅旗満洲都統衙門檔案」に関する研究をすすめており、前者については、ローマ字転写の上、訳註を施し、原文書の写真を付して、2003年度に『内国史院檔 天聰七年』を東洋文庫から刊行した。現在は、同史料「天聰八年檔」、「天聰五年檔」の刊行に向けて、作業をすすめている。後者については、すでにその文書群の概要を、英文にて刊行したが、現在はその継続作業として英文による「研究篇」の編集作業をすすめている。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵「鑲紅旗満洲衙門檔案」について、将来、英文による「研究篇」の刊行につなげるため、整理・研究をすすめた。
- b) 北京・中国第一歴史檔案館所蔵の「内国史院檔 天聰八年(1634)」をローマ字転写の上、訳註を施し、原文書の写真を付して刊行した。

③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析」

ここでは、西欧による世界の一体化が進展する時代と重なりながら、東アジア・北アジアに亘る大規模な統合を独自に進展・実現させて現在の「中国」領域を形成する軸となった、清朝の国家領域構造と対外関係を総合的に分析するべく、1932年以降の満洲国や現在の中国における自治区・民族問題と清朝史との関わりをも含め、清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築する。

[研究実施概要]

- a) 清朝政治史、清代中国社会経済史、清代中国近代政治史、清代モンゴル・露清関係史、清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、平成19年度までに既成の領域世界・時代区分の枠を越えて個別に史料調査・現地調査を実施した。その成果に基づいた専門研究を深化させ、文献史料の調査・整理・分析を行うため、準備を進めた。
- b) 2006～2008年度の3年間の研究成果として、2009年度に英文論文集(TBRL No.15: *The Historical Structures of Eastern and Northern Asia in the Qing Dynasty Era.* [仮題])を刊行するための準備を進めた。

(4) 日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2006年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題(I～V)を公刊してきたことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

[研究実施概要]

- a) 前年度に引き続き、岩崎文庫の中でも万葉集関係のものを中心とする木村正辞旧蔵書約100点について、ひき続き書誌調査を進めた。
- b) 上記a)の成果を2009年度に『岩崎文庫貴重書書誌解題VI』として公刊するため、編集作業を行った。

2. 内陸アジア研究部門

(1) 中央アジア研究班

①「St.ペテルブルグ文書研究」

東洋文庫所蔵のマイクロフィルム(ロシア科学アカデミーSt. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵文書)のうち、ウイグル語・ソグド語・コータン語・マニ文字文献およびモンゴル語文献に関する解題カタログの整備をふまえ、ウイグル文献を中心に、文献学・言語学・仏教学・歴史学等の側面から個別に読解研究をすすめる。5、6世紀から15世紀にいたる中央ユーラシア資料文献学に欠かすことのできないこれらの資料は、小断片にいたるまで精査する価値をもつ。したがって資料使用の基盤を形成することがすべての基本となる。個別文書研究と全体像の明示とを並行してすすめていくことにより、出土地域の歴史像解明をはかる。

[研究実施概要]

- a) ウイグル文書を中心におこなってきた画像とデータベース上の目録とを組み合わせる作業を継続した。ただし、ロシア科学アカデミーとの契約により、画像資料は一括公刊することができないため、当面本研究グループ内部での閲覧を図ることとする。また、より解像度の高い画像データを整備して将来の研究に備える。
- b) 「St.ペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル文献目録(増補版)」刊行の準備を進めた。

②「近現代中央アジアにおける民族の創成」

1991年のソ連解体と中央アジア5ヶ国の独立以来、現今のアフガニスタン情勢まで連動して、中央アジア諸国および、ヴォルガ・ウラル地域ではあらたな「民族意識」がさまざまな形で姿を現し、周辺地域(たとえば新疆ウイグル自治区)にも影響を与えている。このような現代中央アジアの動態を近年における東洋文庫の収集資料を活用して主に歴史学の方法によって検証し、「国民国家」の枠組みを問いなおしつつ、「民族」創成の多様な論理と過程を明らかにする。この地域に「民族意識」の原形が生まれたのは、19世紀末のことであり、これを創出したムスリム知識人たちはおもに新聞・雑誌などの新しいメディアを活用しながら民族的なアイデンティティの形成にあたった。したがって、19世紀末から20世紀初頭に刊行された新聞・雑誌は、重要な史料であり、これをもとに実証的な研究を進める。

[研究実施概要]

- a) 近代中央アジア新聞・雑誌コレクションの整理と研究を継続し、あわせて関連する新刊資料・研究図書収集を進めた。
- b) 研究協力者の参加を得て、本研究テーマに関する研究会を継続的に開催した。
- c) 日本における中央アジア史研究の成果を国際的に発信するために、インディアナ大学と協力して日本語論文英訳シリーズ刊行の準備を進めている。
- d) 清水由里子(研究協力者、中央大学大学院博士課程後期)を中国の新疆档案馆に派遣し、資料調査を行った。

③「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」

本研究は、これまで、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を、現地で作成された生の漢文文書を分析研究することによって、諸民族の歴史の実態を明らかにすることである。このために、3世紀から13世紀に至る時代に作成された漢文文書を記述内容によって分類し、それぞれの文書がどのような特質をもっているかを、書誌学的・あるいは

は古文書学的に研究することによって、諸種文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明するとともに、内陸アジア諸民族の歴史の実態を明らかにすることを期す。

[研究実施概要]

- a) ロシアのSt.ペテルブルク東洋学研究所所蔵の漢文文献マイクロフィルム108リール(Nos.256～363リール)の文献整理番号とその齣数とを示す対照一覧表について、昨年度に引き続き、既存の『俄蔵敦煌文献』(全17冊、上海古籍出版社)に収録された文献(図版)の所在(巻数・頁数)を明示した冊子本を作成するため、最終的な校正作業を継続した。
- b) 国内外の研究者の利用に供するため、上記a)の対照一覧表のデータについて点検作業を行なうとともに、構成メンバーの担当分野にかかわる漢文文書の重要なものを抽出し、その史料価値の究明を進めた。
- c) 5年間の成果をとりまとめ、『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』として刊行した。

(2)チベット研究班

「チベット蔵外文献の書誌的研究」

チベット蔵外文献については、河口慧海請来文献を含む東洋文庫所蔵チベット撰述文献の校訂とデータベース作成を行なうことにより、資料を整理し、その内容を明らかにする。また、チベット仏教宗義文献については、仏教の宗義を解説した宗義文献の校訂・翻訳・研究を行なうことにより、チベット仏教の思想を明らかにする。チベット語敦煌文献に関しては、マイクロフィルムで東洋文庫に所蔵されているスタイン蒐集敦煌文献を含む敦煌出土チベット語文献の校訂・翻訳・研究を行なうことにより、敦煌で栄えたチベット文化を明らかにする。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵チベット蔵外文献の筆記体文書をデータベース化するため、チベット人研究協力者の協力を得て、活字体に直し校訂作業を行った。
- b) トウカン著『一切宗義書』「カダム派の章」(2010年度に『西藏仏教宗義研究 第九巻』として刊行予定)について宗義研究のテキスト校訂、翻訳作業を進めたほか、敦煌出土チベット語文献の解読と研究に着手した。
- c) 2007年度に刊行した『西藏仏教宗義研究 第八巻』を増補し、4版として刊行した。

3. インド・東南アジア研究部門

(1)インド研究班

「南アジアにおける支配権カームガル帝国支配に関わる文書史料の研究」

これまでムガル帝国の各皇帝の代ごとに歴史書、通史の検討を重ね、ペルシャ語の第一次史料を考察することを行なってきた。本研究では、とくに、ペルシャ語の歴史書とともに、ムガル帝国中央政庁から発行されたファルマーンなど第一次文書史料を項目別に分け、調査・収集・整理し、検討をしていく。

[研究実施概要]

- a) ムガル帝国中央から発行された皇帝のファルマーンなど公的文書について、マイクロフィルムなどで収集し分析・検討するため、小名康之(研究班総括)がブリティッシュライブラリー等において調査を行った。
- b) 2009年度に『ムガル帝国支配の文書史料の研究』(仮題)を英文で公刊するため、研究会を開催して、文献調査の結果を検討した。

(2) 東南アジア研究班

「近代移行期の東南アジアの港市世界に見る自画像と他者像」

古くから東西海洋交易の要衝となった東南アジアの港市には、東西世界の商人が逗留するとともに、中国やインド、西アジアなどから多くの移住者が流入した。東南アジアの港市は、地元の人々をはじめ移住者や奴隷さらにはそれらの人々の間に生まれた混血者など、多様な人々が居住する空間となった。他方でこうした港市は、地元世界の外部への窓口となり、地域社会の結節点ともなった。本研究計画では、近代移行期の東南アジアの港市を取り上げ、港市住民がどのように「自分たち」と「彼ら」を区分したかを考察することで、彼らによる地元世界と広域秩序世界を構築するダイナミズムを探る。

[研究実施概要]

- a) 近代移行期の東南アジアの港市に関する文献資料の収集と分析を進めた。
- b) 5年間の成果をまとめ、英文論集 *The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the Nineteenth and Twentieth Centuries* (TBRL No.10) として出版した。

4. 西アジア研究部門

(1) 西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究」

個人間の契約(売買契約など)にとどまらず、広く君臣契約や行政契約(徴税請負など)を含め、現存する文書や史料をもとに、オスマン文書とヴェラム文書を比較しイスラーム世界における契約を保証するシステムと契約によって結ばれる社会関係の全体像を検討する。

[研究実施概要]

- a) 前年度に引き続きイスラーム世界における契約文書の国際比較研究を、国文学研究資料館アーカイブズ研究系の主催する「歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究」と連携して実施し、その研究成果を『オスマン朝と中近世日本における文書史料の比較研究』として日本語・トルコ語で出版した。
- b) ヴェラム文書(東洋文庫所蔵、モロッコの羊皮紙契約文書)の研究を継続した。2011年度に研究成果の刊行を期す。
- c) 他機関の協同プロジェクト「中央アジア古文書研究」(京都外国語大学)、「イスラーム写本・文書の総合的研究」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)などと共同研究会を催し、イスラーム法廷文書にかかわる研究者のネットワークの構築を行った。

C. 資料研究

1. 資料研究部門

(1) 東アジア資料研究班

「東アジア資料の研究」

現在、研究資料の収集のためには、内外の文献刊行状況、電子データの構築状況を随時に把握することが必要となる。そのためには、各種の東洋学専門分野にわたり、海外の東洋学の有力機関と不断に交流を続けることが有効である。このたび東アジア資料の調査のため、新たに東アジアの専門家を結集して本部門を組織することとした。さしあたり、台北の中央研究院との間で締結された漢籍全文資料庫の運用、研究員の交換などを担当するほか、上海復旦大学、華東師範大学、上海

図書館、北京社会科学院文献中心などとの交流促進の任にあたる。

[研究実施概要]

- a) 蔡哲茂氏(台湾中央研究院・研究員)、John Timothy Wixted教授(アリゾナ州立大学)を招聘し研究交流を行った。
- b) 矢吹晋研究員が台湾中央研究院を訪問し、現代史関係資料の調査を行った。

D. 各種研究会・講演会開催

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会回数	8	11	14	7	3	10	8	11	6	13	10	15	116
参加人数	116	427	219	121	55	157	125	117	51	145	138	166	1,837

II. 資料収集・整理

超域プロジェクト研究・アジア諸地域歴史・文化の基礎研究とともに、図書委員会の協議によりアジアの現状および歴史に関する一次資料(写本、文書史料、刊本等)、専門研究書、定期刊行物を収集し、東洋文庫所蔵資料の補充に努める。中国雑誌については、CNKI(中国全土知識インフラデータベース)の政治・経済・法律・歴史・哲学・思想の部をインターネットアクセス方式で導入し、研究の利便性を向上させる。また、東洋文庫の収蔵する蔵書総数は934,825冊(和漢書527,364冊、洋書377,661冊、複写資料29,800冊)に及び、現在、書誌に関するデータベース化は95%(2009年3月現在)完了しているが、この整備をさらに推進し、広く一般の利用に供するために書誌データの加工作業を続行する。さらに、東洋文庫の蔵書のうち、欧文の稀覯書、貴重漢籍、また利用頻度の高い和漢書については、原本を補修すると共に、全文テキストおよび画像情報デジタル化を推進し公開するため作業を継続した。

A. 資料購入

区 分	和漢書	洋 書	その他
超域・現代中国研究	293 冊	9 冊	0 件
超域・現代イスラーム研究	0 冊	1,017 冊	60 件
東アジア研究	186 冊	2 冊	0 件
内陸アジア研究	92 冊	52 冊	4 件
インド・東南アジア研究	0 冊	53 冊	11 件
西アジア研究	0 冊	295 冊	0 件
共通(継続・大型資料)	612 冊	281 冊	108 件
合 計	1,183 冊	1,709 冊	183 件

B. 資料交換

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	和漢書	洋 書	計
単 行 本	1,094 冊	441 冊	1,535 冊	2,031 冊	871 冊	2,902 冊
定期刊行物	2,004 冊	672 冊	2,676 冊	5,027 冊	1,458 冊	6,485 冊
計	3,098 冊	1,113 冊	4,211 冊	7,058 冊	2,329 冊	9,387 冊

C. 図書・資料データ入力数

2008年4月1日～2009年3月31日までの期間における、新収及び蔵書遡及のDB入力数は、下記の通りである。

洋 書	357	トルコ語図書	361
和漢書(含む・中国語)	2,198	南アジア諸語図書	104
キリル語図書	155	雑誌ほか	4,886
ペルシア語図書	1,288		
アラビア語図書	611		
		合計	9,960 件

D. 資料保存整理

補修再製本・製本

2008年4月1日～2009年3月31日までの期間における、保存整理作業は、下記の通りである。

- ・マイクロフィルム劣化防止作業 1,304点
- ・マイクロフィルム整理作業 1,037点

Ⅲ. 研究資料出版

プロジェクト研究および基礎研究では、中国語・朝鮮語・満州語・ウイグル語・アラビア語・ペルシア語・トルコ語など、アジア諸語で記された文書・写本・刊本・地図などを用いて研究を行い、その成果を東洋文庫和文紀要・欧文紀要に掲載するとともに、和文・欧文の研究叢書(「東洋文庫論叢」・「東洋文庫欧文論叢(TBRL)」)、訳注書、書誌解題などを単行本として出版する。これらの成果は、現代アジアの諸問題の解明に寄与するばかりでなく、国際的な発信を通じて国内外に大きな刺激をあたえ、アジア研究のさらなる進展に貢献するものである。

A. 定期出版物刊行

- (1)『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) 第90巻第1-4号 A5判 4冊(刊行済)
- (2)『東洋文庫欧文紀要』(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*)
No.66 B5判 1冊(刊行済)
- (3)『近代中国研究彙報』 第31号 A5判 1冊(刊行済)

- | | | |
|--|-----------------|-------------|
| (4)『東洋文庫書報』 | 第40号 | A5判 1冊(刊行済) |
| (5)『超域アジア研究報告』 | 第5号 | B5判 1冊(刊行済) |
| (6) <i>Asian Research Trends</i> | New Series No.3 | A5判 1冊(刊行済) |
| (7) <i>Modern Asian Studies Review</i> | Vol.3 | A5判 1冊(編集中) |

B. 論叢等出版

- | | |
|---|-------------|
| (1)TBRL10 <i>The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the Nineteenth and Twentieth Centuries</i> | B5判 1冊(刊行済) |
| (2)TBRL11 <i>Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World</i> | B5判 1冊(刊行済) |
| (3)『前近代中国の法と社会—成果と課題—』 | B5判 1冊(刊行済) |
| (4)『内国史院檔 天聰八年(本文編、索引・図版編)』 | B5判 2冊(刊行済) |
| (5)『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』 | B5判 1冊(刊行済) |
| (6)『中近世日本とオスマン朝に見る国家・社会・文書』 | B5判 1冊(刊行済) |
| (7)『戦前期華北実態調査の目録と解題』 | B5判 1冊(刊行済) |
| (8)『日本所在朝鮮近世記録類解題』 | B5判 1冊(刊行済) |

IV. 普及活動

A. 研究情報普及

- (1) 東洋学講座
(春 期) 共通テーマ「『三国志』の世界を語る」

第505回 2008年5月13日(火)
「陳寿撰正史『三国志』の世界」

東洋文庫研究員
日本女子大学名誉教授 多田 猥介氏

第506回 2008年5月20日(火)
「三国時代の戦場」

東洋文庫研究員
立正大学教授 窪 添慶文氏

第507回 2008年5月27日(火)
「地下史料から見る『三国志』」

中央大学准教授 阿部幸信氏

(秋期) 共通テーマ「越境するイスラームーヨーロッパ・日本・中国ー」

第508回 2008年9月22日(月)
「ヨーロッパに根づくイスラーム」

一橋大学教授 内藤正典氏

第509回 2008年9月29日(月)
「日本に暮らすムスリムたち」

早稲田大学教授 桜井啓子氏

第510回 2008年10月6日(月)
「中国におけるイスラームーウイグル人を中心にー」

東洋文庫研究員
中央大学教授 新免康氏

(2) 特別講演会

6月27日(金)
「オスマン朝期アレppoにおける都市空間と地域自治」

日本学術振興会外国人特別研究員 KNOST, Stefan氏

7月3日(木)
「宋代史の諸問題ー寧波の家族史をめぐってー」

中央研究院歴史語言研究所教授 黄寛重氏

12月9日(火)
「ウズベキスタンにおける東洋学」

ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所副所長
スライヤー・カリーモワ氏

2月4日(水)
「イラン・イスラーム共和国における議会図書館の役割と意義」

イラン・イスラーム議会図書館 国際協力専門官 マジード・サーエリ・コルデデ氏

2月18日(水)
「一欧米学者の東アジア研究 ～私の場合～」

アリゾナ州立大学名誉所教授 John Timothy Wixted氏

2月20日(金)
「唐・宋代“道”“路”区画理念の変遷」

河南大学歴史文化学部教授 賈玉英氏

(3) 研究会(東洋文庫談話会)

3月26日(木)

「モンゴル時代華北における系譜伝承と碑刻」

日本学術振興会特別研究員(PD) 飯山知保氏

3月26日(木)

「カザフ遊牧民と露清帝国:境界をめぐる考察から」

日本学術振興会特別研究員(SPD) 野田仁氏

3月30日(月)

「ハディース学文献としての地方史人名録:10-13世紀の編纂流行とその背景」

日本学術振興会特別研究員(PD) 森山央朗氏

3月26日(木)

「オスマン帝国における系譜意識と正統性の創造」

日本学術振興会特別研究員(PD) 小笠原弘幸氏

(4) 参考情報提供

『東洋文庫年報』平成19年度版

A5判 1冊(刊行済)

B. データベース公開

2008年4月1日～2009年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ(日本語、英語)に対するオンライン検索アクセス件数は、概略、以下の通りである。

区分/2008年4月～2009年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
漢籍資料	1,641	1,537	1,911	2,810	2,895	1,138	2,279	3,444	1,617	2,160	2,786	2,835	27,053
中文・日文・欧文・ロシア新収図書目録	189	42											231
中文図書(含・近中、逐次)	2,157	2,081	2,338	2,962	3,804	1,918	2,894	2,639	1,525	1,251	2,152	2,690	28,411
日本文図書(含・近中、逐次)	2,072	2,188	2,541	2,792	3,763	1,923	2,067	2,405	1,678	2,056	2,311	1,987	27,783
日本関係文献目録(含・近代、岩崎)	1,946	1,437	1,341	1,454	2,379	1,587	1,293	1,440	857	1,053	1,455	2,073	18,315
洋書(欧文図書)目録(含・近中)	1,797	1,547	2,135	1,538	2,886	1,788	1,537	1,884	895	1,132	1,517	1,575	20,231
洋書総合	389	481	748	592	514	260	303	451	322	367	228	266	4,921
アラビア語図書	545	449	473	489	907	590	966	1,015	570	687	863	1,124	8,678
トルコ語図書(含・オスマン語)	933	530	863	973	1,179	965	708	783	522	361	649	689	9,155
ペルシア語図書	317	366	1,066	493	725	324	639	1,028	642	447	560	744	7,351
チベット語文献(河口・蔵外文獻)	410	428	455	744	884	334	380	401	0	155	288	282	4,761
モンゴル語図書・資料	284	346	315	185	239	171	752	738	227	1,121	492	647	5,517
ウイグル語図書・資料	192	129	119	201	137	64	189	220	140	140	185	254	1,970
ビルマ語図書	291	266	245	969	332	187	80	74	25	57	47	177	2,750
タイ語図書・資料	106	48	80	53	108	58	182	139	44	79	139	240	1,276
インドネシア・マレーシア語図書	65	84	165	186	229	76	52	58	19	88	125	197	1,344
中央アジア研究文献目録	318	255	229	386	375	108	121	120	64	29	21	65	2,091
中東イスラーム研究文献目録	1,089	460	731	653	741	254	135	35	51	168	180	222	4,719
アジア歴史研究者ディレクトリ	593	161	294	304	457	218	639	676	261	282	239	306	4,430
全文公開画像DB							276	234	108	147	200	210	1,175
画像DB(梅原考古資料、香港銅版画等)	21,303	47,637	53,101	51,699	55,616	63,717	13,786	15,219	6,888	7,844	8,978	10,923	356,711
動画資料(香港の祭祀と演劇)	1,380	1,033	1,025	1,186	1,668	798	52,041	50,300	51,312	47,606	52,194	44,332	304,875
そのほか(南方資料・朝鮮など)	36,433	21,053	22,538	20,607	21,246	24,548	28,225	32,097	31,904	29,651	28,307	26,398	323,007
合計	74,450	82,558	92,713	91,276	101,084	101,026	109,544	115,400	99,671	96,881	103,916	98,236	1,166,755

V. 学術情報提供

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

A. 図書・資料の閲覧(協力)サービス

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
閲覧者人数	157人	154人	139人	170人	209人	186人	150人	96人	149人	117人	162人	180人	1,869人
閲覧図書数	2,365冊	1,969冊	2,176冊	1,535冊	3,156冊	2,615冊	1,596冊	1,215冊	2,503冊	2,039冊	2,934冊	3,525冊	27,628冊
レファレンス数	42件	42件	38件	46件	56件	50件	41件	26件	40件	32件	44件	49件	506件

B. 研究資料複写サービス

(1) マイクロフィルム・紙焼写真

区分	申し込み件数
数量	176件

(2) 電子複写

区分	申し込み件数	焼付枚数
数量	824件	40,322件

C. 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第89巻4号	330部
東洋学報 第90巻第1-3号	330部
東洋文庫欧文紀要 Vol.65	50部
TBRL9 <i>Memorial OJIHARA Yutaka-Studia Indologica</i>	30部
宋会要輯稿食貨社会経済語彙	100部
水経注疏訳註	100部
トルコにおける議会制の展開	30部
近代中国研究彙報 第30号	50部
東洋文庫書報 第39号	20部
東洋文庫年報 平成19年度	10部

D. 研究情報提供サービス

『宋史食貨志訳註(一)~(六)語彙索引』を発行した。

E. 広報普及

東洋文庫ホームページを随時更新した。

F. 研究者の交流および便宜供与のサービス

1. 長期受入

(1) 国内研究者の受入

光田 剛 (成蹊大学法学部教授)

「アジア革命としての中国革命」

(2009年1月1日～同8月31日・成蹊大学経費)

(2) 2008年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

① SPD

野田 仁(東京大学大学院PD)

「カザフ・ハーン国の対外関係史の研究:18～19世紀の清朝との関係を中心に」

(2007年度採用、'08'09年度・3ヶ年間)(2009年3月31日就職のため辞退)

② PD

河原 弥生(東京大学大学院PD見込)

「コーカンド・ハーン国期におけるフェルガナ・ムスリム社会の形成とイスラーム」

(2005年度採用、3ヶ年間 途中中断あり、半年延長・終了)

飯山 知保(早稲田大学大学院PD)

「士人層の変遷からみた金元代華北における社会統合と後世華北漢族社会形成の淵源」

(2006年度採用、'07・'08年度3ヶ年間・終了)

小笠原 弘幸(東京大学大学院PD)

「オスマン帝国における歴史意識－建国神話に見られる「起源」の記憶と創造の変容－」

(2006年度採用、'07・'08年度3ヶ年間・終了)

森山 央朗(東京大学大学院PD)

「10～12世紀の中東におけるウラマーと地方史人名録編纂の社会史的研究」

(2006年度採用、'07・'08年度3ヶ年間・終了)

吉田 建一郎(慶応大学大学院博士取得)

「近代中国の卵、獣骨、皮革を中心とした畜産品貿易に関する総合的考察」

(2007年度採用、'08・'09年度3ヶ年間)

橋爪 烈(東京大学大学院PD)

「支配権喪失後のカリフの権威:軍事政権, アッバース家, ウラマーの視点による再考」

(2008年度採用、'09・'10年度3ヶ年間)

(3) 外国人研究者の受入

Stefan KNOST (フランス近東研究所)

「オスマン都市の自治的行政組織」

(2006年11月1日～2008年7月7日・科学研究費補助金)

Christophe MARQUET (極東学院東京支部 代表)

「江戸中期・後期の絵入り本と画譜」

(2004年9月1日～2008年8月31日・フランス国立極東学院経費)

黄寛重 (中央研究院歴史語言研究所教授)

「中国政治史・社会史」

(2008年6月10日～同7月9日・科学研究費補助金)

彌永 信美 (フランス国立極東学院研究員)

「仏教学」

(2008年9月1日～2009年8月31日・フランス国立極東学院経費)

KATZ, Paul Russell (台湾中央研究院近代史研究所 研究員)

「中国思想史・宗教史」

(2009年2月9日～同2月13日)

侯甬堅 (中華人民共和國陝西師範大学 教授)

「中国歴史地理学・環境史学」

(2009年3月1日～同3月31日)

2. 外国人研究者への便宜供与

Canada

楊 曉 捷

カルガリー大学 教授

Olga Bakich

トロント大学

China (Peoples Republic)

巴 特 尔

内蒙古社会科学院 研究員

方 素 梅

中国社会科学院民族学与人類学研究所 教授

包 茂 紅

桜美林大学 教授

方 素 梅

中国社会科学院民族学与人類学研究所 教授

趙 水 森

洛陽師範学院図書館長

李 凭

華南師範大学教授

楊 偉 兵

復旦大学歴史地理研究中心教授

葉 爾 達

中央民族大学教授

葉 尔 達

中国民族大学 教授

賈 玉 英

河南大学 教授

劉 小 萌

中国社会科学院近代史研究所 研究員

烏雲華力格

綜合地球環境学研究所 教授

趙 志 強

北京社会科学院満学研究所 教授

額日徳木図 北京中央民族大学 副教授
張 金 龍 山東大学 教授

Egypt

Nelly Hanna Prof., American University in Cairo

German

Orna Almogi Prof., Hamburg University

Netherlands

Matthi Forrer Chief Researcher,
Leiden National Museum of Ethnology

Russia

Usmanova Larisa 島根県立大学 Teaching Assistant
Saveliev Igor 名古屋大学准教授
Evgeni Robusher Bilkeut University Prof. Dr.
Dinko Robusher Bilkeut University
Z.F.Morgun ロシア極東国立大学 ロシア

Singapore

朱 溢 新加坡国立大学中文系

U.S.A.

John Timothy Wixted Arizona State University Prof. Dr.
Cemd Kafada Harvard University Prof. Dr.China

VI. 地域研究プログラム

A. イスラーム地域研究資料室

「イスラーム史料情報学の開拓」

本研究では、イスラーム地域の現地語史料について、書誌情報や文献情報の体系化を進めることによって研究の基盤を作り、同時に史資料の体系的な収集や利用のための環境を構築する。史料群を地域社会全体を表す縮図と捉え、これを体系的・俯瞰的に研究することによってイスラーム地域の重層的な像を解明することを目的とする。

具体的には次の3つを柱とした研究活動を行う。

1. 現地語史資料の体系的収集
2. 文献情報ネットワークの構築
3. 文書史料による比較制度研究
4. 上記3を推進する上で、原典資料講読に関わる2つの研究ユニットを発足させる

[研究実施概要]

a) 研究会開催

文書史料による比較制度研究では、近現代を含む文書史料(とりわけイスラーム法廷文書)をもとに、その地域間比較を通してイスラーム地域の社会制度・社会関係の研究を推進している。国内の機関で進行中の文書研究プログラムと連携して、中

央アジアの文書については研究会1、セミナー1、オスマン朝期の文書については研究会3、セミナー4、ワークショップ1、講演会1をそれぞれ開催し、イスラーム地域研究上智大学拠点ユニット2との連携による「東南アジアのキターブ目録作成勉強会」は3回開催された。また、原典翻訳を目的とする「シャリーアと近代：オスマン民法典研究会」及び「オスマン帝国史料の総合的研究」の二つの研究班が発足し、それぞれ5回の研究会を行った。

b) 東洋文庫拠点収集資料DB公開

2008年4月より東洋文庫拠点収集の現地語資料DBを拠点サイトにて公開した。本DBは多言語に対応しており、アラビア文字及び翻字(ローマ字)いずれでも検索が可能である。2009年2月現在、1430件を公開している。

c) 文献情報ネットワークの構築・拡充

1. 「日本におけるアラビア文字資料の所蔵及び整理状況の調査」出版
2. 日本における中東イスラーム研究目録補遺DBの編集・公開（日本中東学会との連携）

d) 海外派遣(調査および資料収集):3名派遣

1. ウズベキスタンにおけるイスラーム法廷文書の調査及び撮影作業(2008年8月22日～9月5日)

派遣先:ウズベキスタン 被派遣者:磯貝健一(研究分担者)

2. トルコ・クロアチアにおける資料収集・資料調査・学会出席(2008年8月11日～9月11日)

派遣先:トルコ・クロアチア 被派遣者:澤井一彰(研究協力者:研究班「オスマン帝国史料の総合的研究」)

3. 大英図書館における資料調査(2008年9月20日～9月27日)

派遣先:イギリス 被派遣者:柳谷あゆみ

e) 海外招聘:3名招聘(うち1名はイスラーム地域研究早稲田大学拠点総括班予算による)

1. ダマスカス歴史文書館館長オベイド・ガッサーン氏

滞日期間:3月11日-3月19日

2. オスマン文書史料研究者ジェマル・カファダル氏及びギュルル・ネジブオウル氏(ハーヴァード大学)

滞日期間:3月18日-3月28日

3. オスマン文書史料研究者ネッリー・ハンナ氏(カイロ・アメリカン大学):※総括班予算による

滞日期間:12月18日～1月19日

f) 現地語史料の体系的収集

ペルシア語 図書321冊 雑誌61冊 アラビア語 図書1209冊 雑誌11冊 オスマントルコ語 図書260冊 洋書 図書19冊

B. 現代中国研究資料室

「現代中国研究資料の収集・利用の促進と現代中国資料研究の推進」

中国研究に関するウェブやデータベースに関する情報を交換し、研究者の知見を広めるために、国内外の研究者・実務家を招いての国際シンポジウム及び小規模なワークショップを開催する。また東洋文庫所蔵及び新規収集の一次資料に基づいた共同研究会を継続して開催し、資料の読解能力を高め、若手研究者の養成をはかる(年数回)。また、データベースや文献資料以外に、現代史研究に必要な資料の史料学的研究を進めるセミナーなどを開催する。

[研究実施概要]

a) 中国語資料の体系的収集と、収集資料の研究

昨年度に引き続き地方史資料（『民国珍稀短刊断刊』シリーズ計82冊）や、教育関係資料（現在中国で使われている教科書や指導書等、語文・歴史地理科など計168冊）、中華人民共和国初期の政治資料（『中共重要歴史文献資料彙編』計26冊）などを収集した。

資料収集については、資料の価値などを検討する史料学的検討が不可避であるが、映像史料については、5月16日にNHK放送文化研究所の長井暁氏を招き、ワークショップ「中国における映像アーカイブと中国研究への応用」を開催した。口述資料については、6月21日にワークショップを開催した。ともに参加者30名以上を数え、非常に盛況であった。

また、中国における地方史資料の収蔵・公開状況の調査のために、大澤研究員が8月21日から9月3日にかけて浙江図書館や紹興図書館（中国浙江省）を訪問し、当地の館員と意見交換などを行った。この他、若手研究者を中心とした資料研究会を5回ほど開催した（1回は教育資料関係、4回は50-60年代資料関係）。

b) 資料収集・資料情報の共有面での分担・協力の推進

昨年度に引き続き、資料のデジタル化とNACSIS-Webcatへの登録を推進している。前者については、総合電子図書館システムの一部を構築するとともに、さまざまな条件で画像資料のデジタル化実験を行い、その時間・金銭コストなどのデータを収集した。後者については、2003年以降収集した現代中国関係の中国語書籍274タイトル、及び近代中国研究委員会収集日本語雑誌151タイトルについて、所蔵登録・書誌作成などを行った。

c) ネットワーク化と収集資料の整理・公開についての研究

事業のネットワーク化のため、春期に開催した2回のワークショップでは、外部からの招聘に力を入れた。特に、6月のワークショップ「オーラルヒストリーと中国現代史研究一技法・記録・語り」はNIHU中国研究コロキウムとして、早大拠点、東大拠点、慶大拠点、地球研拠点から、社会学等さまざまな専門を持つ報告者・コメンテーターを招聘した。

また本資料室の事業を対外的に発信するために、6月に大澤研究員がウランバートルで開かれた国際会議に出席し、日本におけるアジア歴史資料のデジタル化について報告した。

VII. 受託研究

「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」

（イスラーム地域研究資料室委託業務）

本委託業務の目的は、ネットワーク型共同研究「イスラーム地域研究」の発展によって、グローバル化した現代のイスラーム理解を深化・向上させ、その成果を学界及び広く社会に還元すべく国際的な広がりを持つ新時代の共同研究拠点を構築することにある。また、共同研究実施にあたり、国内では公募研究を通じて幅広い人材の参加を促進し、国際的には研究者の協力のネットワークの強化を行い、さらに研究支援組織としても管理業務環境を整備・強化した事務体制を構築する。

財団法人東洋文庫では、イスラーム地域研究の史資料センターとしての役割を果たすべく、史資料の収集・利用の促進と、イスラーム史資料学の開拓に関わ

る研究開発を実施する。

[研究実施概要]

- a) イスラーム地域の史資料の収集・整理・利用に関わる研究活動のさらなる発展と、集中的な史資料収集および資料整理・データベース入力事業を強化するために、活動環境を整備した。今年度は「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の遡及入力事業を実施した。また、中東諸言語の辞典、当該地域の研究文献目録、地図等の参考図書を購入した。
- b) 研究情報の電子媒体による成果の発信のために、ウェブサイトを開示した。ウェブサイトのアドレスは、<http://www.tbias2.jp/>である。
- c) 公募研究事業「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治下において作成された帳簿群を中心として(3年間)」(研究申請者：高松洋一(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授))を実施した。2008年11月から2009年3月にかけて研究会を4回開催し、研究事業の構想について検討するとともに初期的な研究報告を得た。また、2009年1月から2月にかけて、研究者をエジプト・アラブ共和国およびトルコ共和国に計2名派遣し、資料調査を行った。海外研究者を1名招聘し、国際ワークショップおよび東京大学東洋文化研究所との共催講演会を開催した。

2008年度財団法人東洋文庫特別事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 榎原 稔

2008年度財団法人東洋文庫特別事業報告の概要は下記の通りです。

事業内容

I. 特別調査研究並びに研究成果の編集等

A. 日本学術振興会科学研究費補助金による事業

1. 研究成果公開促進費(データベース等)の対象事業

「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長: 斯波義信]

分野: 東洋学全般

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である(財)東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数約500,000件、冊数約1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、画像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。

書誌データは1994年に入力を開始して以来、約15年を経て、600,000件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降はデジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを越える貴重書フィルム(35mm)を所蔵している。これをスキャナーにより画像をとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関するVideo資料を動画データベースとして公開する計画も一部実行してきている。これらの努力の結果、2002年度において毎月2000件であったアクセス数は、2008年9月末の段階で、当初の50倍、100,000件に到達した。今後は、書誌データについては、分類による検索を付加して、利用者の検索を容易にし、画像データについては、引き続きデジタル撮影を継続して、その量的拡大とメタデータの充実をはかる。また、動画については、まだ緒についたばかりであるので、一層の充実を目指す。

[研究実施概要]

a) 書誌データ・ベースの補充

漢籍のうち、洋装本の漢籍データを順次に入力して補充した。

b) 貴重書・稀覯書の画像データの作成

貴重書、稀覯書のうち、特に貴重なものおよび全頁データをカラーのデータでWebサイトに挙げた。

1. 画像データ

1) 日本近世の彩色絵画 マイクロ撮影・デジタル化

- 2) 日本・中国の彩色版画(浮世絵・小説挿絵など) マイクロ撮影・デジタル化
- 2. 全頁データ
 - 1) 稀観古本洋書 マイクロ撮影・デジタル化
 - 2) 古典籍善本 マイクロフィルムからのスキャナーによる取り込み
 - 3) モリゾン・パンフレット撮影(入力準備)
- c) 動画データ
 - 1. 香港正一派道士大平清醮儀礼
 - 2. 香港正一派道士洪朝儀礼

2. 基盤研究(B)の対象事業

(1)「古代インドの環境論」

[研究代表者:原 實]

(基盤研究(B)、2006年度採用、4ヶ年間・最終年度)

科学技術、機械文明の発達は反面自然破壊を結果し、近年生態系の変化や地球の温暖化が問題視され、人間とそれを取巻く自然環境との共存が識者の注意を喚起しているが、この問題が古代インドにおいてどのように考えられていたかを見直そうとするのが本研究の目的である。

インドには古くから「不殺生」の思想があり、それは仏教の「山川草木国土悉有仏性」「草木国土悉皆成仏」の教義を通じて我が国にも伝えられた。その思想的背景をより体系的に検討する為に、この視点から梵文原典や漢訳仏典を詳細且つ綿密に検討し直す必要がある。

研究代表者は先ず現在古代インド乃至仏教の環境問題に関心を寄せている欧州の有力な学者を訪ねその教示を得つつこの研究に国際性を持たせ、その水準に於いて同学の諸氏の協力の下、この研究を進めている。

[研究実施概要]

- a) 2008年6月、10月と2009年2月に計三回の合同研究会を開催した。又、2008年9月5日には午後2時30分より2時間に亘り、第59回日本印度学仏教学会学術大会のパネル討論会に参加し、「仏教環境論と現代」の題名の下に6人の本研究代表者と連携研究者・研究協力者が講演を行った。
- b) 研究代表者は、国際学士院連合の年次総会出席のため、ベルギーのブリュッセルに出張し、この機会にドイツのミュンヘン大学に赴いて、当地の大学関係者と研究討論の機会を持った。
- c) **Bewusstsein und Wahrnehmungsvermögen von Pflanzen aus hinduistischer Sicht** (ヒンズー教の植物の意識と知覚能力) その他の論文を公表し、**Der orientalische Mensch und seine Beziehungen zur Umwelt** (東洋における人間と環境) の問題に少なからぬ関心を寄せている Halle 大学の **W. Slaje** 教授を招聘し、討論会を開催した。
- d) 4ヶ年の研究の成果を「古代インドの環境論」としてとりまとめた。

(2)「宋代社会経済史語彙解釈のデータベース化」

[研究代表者:斯波義信]

(基盤研究(B)、2007年度採用、3ヶ年間・第3年度目)

本研究は、中国社会経済史用語の電子辞典化を目的とする事業である。本研究ではその基幹の作業として宋代に関する用語を選定し、分析・解説を施し、データベース化を図るものである。

東洋文庫では中国経済史の基本資料に当たる13種の歴代正史の食貨志(経済・財政記録)の詳しい訳注を作成してきた。このうち、最も大部な『宋史』食貨志篇についての訳注成果は逐次刊行の結果、平成17年度に全6巻の完成をみ、通巻の索引も作成

した。同じく宋代の根本資料たる『宋会要輯稿』食貨篇については、年月日・詔勅、人名・書名、職官、地名の各用語索引を順次刊行し、残りの経済・社会・法制・文書・難読語彙等についてもそのデータベースを構築し、その中の社会経済用語については、『宋会要輯稿 食貨篇 社会経済用語集成』として刊行した。

このような成果をもとに、『宋史』および『宋会要輯稿』の食貨篇から採録した用語（前者約1万語、後約9万語）について、用語とその解釈を選定集するとともに、それに組織的な分類を施しつつ編纂し、電子化することを企図している。

[研究実施概要]

- a) 岡野一朗『支那経済辞典』ほか、電子化された各種文献を整理・統合して各語彙にコード・サブコードを付し、解説執筆作業を行った。
- b) 昨年度刊行した『宋会要輯稿 食貨篇 社会経済用語集成』を補完するため、『宋会要輯稿』刑法篇からも関連用語を採録するとともに、食貨篇中より既に採録済みの法制・文書・難読語彙についても、社会経済事象の解明に資する方向で採録の対象に加え、解釈を付した。

3. 基盤研究(C)の対象事業

「敦煌・トルファン漢語文献の特性に関する研究」 [研究代表者:土肥義和]

(基盤研究(C)、2005年度採用、4ヶ年間・最終年度)

本研究は、旧来、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた敦煌・トルファンなど内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を、現地で作成された生の漢文文書を分析することによって、諸民族の歴史の実態を新たに研究することにある。これに関連して、近年東洋文庫がmicrofilmで入手したロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルク分所の漢文文書がどのような特質をもっているかについて、書誌学的、あるいは古文書的な整理と研究を行う。このために、本年度は、「サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵漢語文献microfilm(107リール)文献番号・コマ数対照表」をデータベースとして作成すること、及びそれらを共同で利用・研究する研究者組織をつくることを目的とする。

[研究実施概要]

- a) 研究協力者（荒川正晴・池田温・石塚晴通・氣賀澤保規・妹尾達彦・関尾史郎の諸氏、及び石田勇作・伊藤敏雄・伊藤美重子・石見清裕・張娜麗・西本照真・町田隆吉の諸氏）とともに、ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルク分所の漢文文書から新しく抽出した未公開文献を、それぞれの分野から評価する検討会議を開催した。
- b) サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵敦煌等漢語文献microfilm(107リール)中、 Δx 及び Φ などの文献番号が付された40リールの「文献番号・コマ数対照表」データベースについて最終校正作業を完了させた。
- c) 個別研究として、研究代表者は、昨年度に引き続き、唐代均田制の実施状況を明らかにするために、田土の還受問題（還受否定論対還受肯定論）に焦点をあてて研究をすすめるとともに、敦煌発見の漢語文献の特性について、敦煌仏教教団の写経事業を中心に検討した。研究分担者は、昨年度に引き続き、敦煌・トルファンなど内陸アジア出土の文献からソグド人その他の関係文献の年代論やグルーピングを試み、また海外調査の成果から物価文書に見える胡漢の物品を再考し、胡漢雑居の実態について検証した。
- d) 4ヶ年の研究の成果を「敦煌・トルファン漢語文献の特性に関する研究」としてとりまとめた。

4. 外国人特別研究員奨励費の対象事業

「オスマン都市の自治的行政組織ータンジマート期以前のアレppoー」

[申請者:Stefan KNOST(学振外国人特別研究員)、研究代表者:三浦 徹]
(2006年度採用、3ヶ年間・最終年度)

イスラーム世界の都市はヨーロッパ都市のような自治制度をもたないとされてきたが、街区における宗教施設や寄進に着目し、法廷文書や寄進文書をもとに、寄進者、寄進財産の運用と管理、それにかかわる行政官、街区の名士などの役割を分析することによって、街区の宗教施設や寄進財産が、地域住民に公的なサービス(集会場、水道、浴場など)を提供し、街区が自治団体として機能していたことを実証的に検証する。イスラーム法廷文書とワクフ(寄進)関係文書から、上記の目的にそったデータベースを作成し、シリアの2都市(アレppo、ダマスカス)を対象とし、都市社会組織についての比較研究を、特別研究員と受入研究員が共同で行い、オスマン朝時代の都市の社会組織について、街区のもつ自治的役割をあきらかにする。

[研究実施概要]

- a) 現地での文書史料調査を実施し、結果を踏まえつつ前年度の検証をさらに発展させた。具体的には、①隣人共同体のイマーム②隣人ワクフ③隣人モスクの三つがタンジマート以前アレppoの行政において枢要をなしていたとの仮説のもとに、文書史料および文書史料データベースを用いてこの精査を行い、論文9件を発表し、また海外の2国際会議にて成果報告を行った。
- b) オスマン朝社会史研究者アストリド・マイヤー氏の訪日及びワークショップ開催などオスマン朝社会史研究、文書研究の分野で海外研究者との研究交流の活性化が実現された。

B. 三菱財団補助金による事業

1. 三菱財団人文科学研究費補助金の対象事業

- (1)「中国社会経済史用語解釈(宋代篇)作成の研究」 [研究代表者:斯波義信]
(2005年10月～2008年9月・3ヶ年間・最終年度)

中国社会経済史の研究が興って約100年に近いが、この研究の基礎前提をなす漢籍史料の校訂・読解および必要情報の抽出という作業段階において、これを容易にする専門的な辞書・用語解がまだ整っておらず、研究の推進や普及を困難にしている。中国社会経済の用語は、用例・用法ごと、時期・地域ごとに多義かつ複雑であるのに、専門辞書が皆無にちかく、詳細な漢和辞典においてもまれにしか掲載していない。本研究はこれを打開するため、これまでに蓄積された用語知識を集成してデータベース化しつつ、研究者が常備使用できる用語解を作成することをめざし、とりあえずこれを宋代史について実施する。

東洋文庫では、創立当初からの継続事業の一つとして、中国经济史の基本史料に当たる13種の歴代正史食貨志(経済・財政記録)の詳しい訳注を作成してきた。このうち最も大部で、しかも元・明・清時代の制度や実体のルーツを記録する『宋史』の食貨志篇について、その訳注を逐次刊行し平成17年度にその完成を見るに至った。

そこで、これまでに蓄積された用語解釈を選定集成し、国内及び海外の宋代社会経済史の研究者が常時必携参照し、研究全体の推進に資すべき用語解の編纂を計画した。用語の選定範囲は基本的には『宋史』食貨志篇の各章とするが、各章の記述の源泉をなす『宋会要輯稿』食貨篇の語彙索引(現在同時推進、刊行中)及び専門学術書中の附註なども広く参照し、また各語彙の用例、用法、典拠史料、時期別、地域別の限定も付し、要するに実用的な辞書機能を帯びた用語解釈の集成を行なうものである。この企画を実現し、さらに将来その成果を日本文・英文で刊行することに

至れば、中国社会経済史の研究の推進と解釈の深化が大いに期待される。

(2)「清代諸領域の歴史的構造分析:総合研究

—清代東アジア・北アジアにおける政治・社会・経済・民族・文化の展開—

[研究代表者:石橋崇雄]

(2006年10月～2009年9月・3ヶ年間・最終年度)

西欧による世界の一体化が進展する時代と重なりながら、東アジア・北アジアには清朝による大規模な統合が実現した。しかも清朝の統合が現在の中国の領域を形成する軸となっているが、それは単に清朝の領土を継承したというだけにとどまらず、その政治・社会・経済・民族・文化の展開をも継承していることに大きな特徴がある。これらは全て、現在の中国分析に直結する研究課題であるが、その総合的な研究については未だ充分とはいえない現状にある。本プロジェクトは、中国内地の諸領域世界とその国家領域構造と対外関係を総合的に分析することによって、現代中国に直結する新たな清朝の総合的な歴史像を提示することを目的とする。その際、従来その歴史的な意義について十分に言及されてこなかった、1932年に中国東北部で造られた満洲国の位置付けの問題や、現在の中国における自治区・民族問題と清朝史との関わりについても、新たな具体像を提示したい。

(3)「“モリソン・パンフレット”資料集の学際的研究

—中国をめぐる近代極東史の一次資料の解析—

[研究代表者:斯波義信]

(2008年10月～2010年9月・2ヶ年間・初年度)

東洋文庫の蔵書の中核のひとつ、「モリソン文庫」には、「パンフレット」と称する7,200件の膨大な一次資料群が含まれている。これは、G.E.モリソン氏(1862-1920)が、英国の“タイムズ紙”の極東在住特派員(1885-1912)、ついで民国総統府外国人顧問(1912-1920)であった時に、華北・満蒙・朝鮮・日本・華中南から雲南・メコン流域にわたる政治・外交・軍事・内乱、経済金融、貿易、法制度、社会文化の諸情勢について、極東の政情の推移のみならず、国際的に入り組んだアヘン問題、義和団事変、日露戦争、対中借款、国際通商などを解析する上で鍵となる貴重な情報源に満ちている。しかし、資料内容の目録整理に時日を要した(1974年刊)ほか、相互参照に供すべき関連諸国の同時代資料が公開されたのも近年に属し、さらに総合分析のための学際・国際研究の学術体制もようやく近年に整うに至った次第である。

本研究は、この貴重でありながら活用のための整備がおくれてきた「モリソン・パンフレット」に焦点をあて、その利用を促進するための基礎作業である。この文書集がカバーする清仏・日清戦争、義和団事変、日露戦争から光緒新政、袁世凱・北洋軍閥政権にいたる政治過程およびその間の国際的な政治・経済・社会の動態の詳細に通じる学際研究者のチームをここに組織し、各研究者のテーマに照らして「パンフレット」中の資料を検討し、同時に今日相互参照できる諸外国保有の同時代資料も動員して、新しい知見・解釈を内外の学界に提供し、もって「パンフレット」の学術的な価値を拾い利用に供する事をめざす。

「モリソン・パンフレット」が伝える19世紀末から20世紀初頭にかけての新旧体制の葛藤は、奇しくも「改革開放」への移行から四半世紀を経過している現在の中国の状況と告示するところが多い。この断続と持続の矛盾・葛藤の本質を探り、この問題への適切な歴史的パースペクティブを備える上で、「モリソン・パンフレット」が提供する詳細かつ直接的な情報群は、不可欠な資料の集合体であり、本腰を入れた研究を発足させることが焦眉の急である。